令和４年度　教育企画委員会　活動報告

■委員名	委 員 長：別府清香 副委員長：臼井尚子 委　　員：中谷千鶴・片岡貴子・段久美・松田絵利子・新井祐恵・北野貞・向井美千代
■開催回数	５回
■活動目標	１．資質向上につながる教育計画立案のために、現場および会員の視点で協議を行う ２．協会からの諮問事項に基づいて、必要な教育研修の企画について協議する
■活動内容	１．教育認定部からの報告により教育研修の実施状況を把握し、今後の課題を抽出 １）委員の所属する施設の周辺地域の研修ニーズについて情報収集し、委員会内で次年度の研修企画に役立てるための課題を検討した。 ・診療報酬に関する研修、中堅看護師を対象とした研修、ジェネラリスト研修などの希望があった。 ２）令和４年度研修の実施状況の結果と評価 教育認定部からの報告から次年度への課題を抽出した。診療報酬に関する研修、中堅看護師を対象とした研修等の実施状況を確認する。アフターコロナに必要な研修や、交流会の開催等、継続する研修について提案した。 ２．コロナ禍　アフターコロナに必要な教育研修について企画 新人看護師と先輩看護師間の相互理解を深めるために、ジェネレーションギャップを埋める研修を対面で実施した。新人・先輩のペアで参加してもらえるよう案内し、46名の参加があった。 ・受講生の大半が上司の勧めであったが、研修のねらいの達成や理解について、全体の９割は「達成した」「まあまあ」と感じており、研修のねらい、内容も適切であった。 ・同年代のグループワークで思いを表現した上で、異なる立場の意見を聞き、自己を客観視し、次への課題を具体的に考えることができたので、２回のグループワークを行うことは効果的であり、新人看護師と先輩看護師の相互理解を深めるという目標は達成できた。 ・研修を通して他者理解に繋がり、新人、先輩双方が成長する機会となり、各組織での活動に活かすことができるため次年度も継続していく。 ３．多様な現場への就職が広がっている中で「基礎教育と卒後教育の現場担当者による交流会」を開催 ・意見が偏らないように、様々な規模や運営形態の違う病院、施設、訪問看護ステーション、教育機関、行政、職能団体などからの参加を募った。計20名が参加 ・今後の課題として、社会人基礎力の研修も必要、コミュニケーション力の強化、メンタルサポートをどのようにしていくか、看護師としてのアイデンティティをどの様に育成していくか、学校側との連携体制の構築などが挙げられた。

■活動の評価	1．各施設や周辺地域での研修ニーズを情報収集、次年度への計画に反映できた。 2．昨年度に引き続き課題であるコロナ禍における新人を理解するための研修を企画した。新人側と指導者側の相互理解を深めるために、グループワークの方法を工夫した。お互いの立場や考えを理解することができ、今後の実践に活かす示唆を得られた。（次年度も継続） 3．多様な現場への就職が広がっている中で施設、学校間での交流会を開催した。 　意見が偏らないように、様々な規模や運営形態の違う病院、施設、訪問看護ステーション、教育機関、行政、職能団体などからの参加も促した。今後の新人教育に活かすための課題や支援体制についてまとめることができた。
■今後の課題	1．交流会の継続　臨床現場での計画に反映する 2．参加者の少ない研修に関する情報共有と研修の在り方について継続検討